

地本業務ニュース

JR 東海 労・静岡地方本部

NO.13 2022年6月17日発行者：JR東海 静岡地方本部 半場弘恭

申第8号「静岡駅構内車両不具合 について」で窓口回答 車両の連結不具合事象は 運転士にしっかりと説明せよ

6月6日、申第8号「静岡駅構内車両不具合について」で会社が窓口回答を行い、地本は会社と議論を行いました。

3月14日東海道線静岡駅構内で連結作業を行っていた151Mに連結不良が発生し、運休が発生しました。このため、島田折り返しの446Mも運休となったため、静岡駅で接続のひかり512号に乗車予定の旅客が乗車できなかったなど、多くの旅客に影響が出ました。

当該車両は211系と313系8000番台で、ホロ止め金具が適正に固定できなかったという事象です。以前からも併合・解放作業時のホロの取り付け、取り外しに関する問題は発生しており、早急な点検と対策実施を求めて申し入れていたものです。

以下回答と主な議論です。

1. 連結不良となった原因を明らかにすること。

回答：ホロ止め金具（211系）と車体側の溝（313系8000番代）側が鑑賞したため、ホロの固定ができなかった。車体側の溝が他の車両よりも狭いことを認めた。

2. 運休とした理由を明らかにすること。

回答：最終的にホロ止め金具を固定することはできたが発車時刻を過ぎており、後続列車の441M浜松行きで旅客救済し、他列車への影響を最小限にするために運休とした。

3. 再発防止の対策を明らかにすること。

回答：313系8000番代全6編成の内、S1、S2編成については、車体側の溝を削正し拡大した。静岡車両区所属の211系、313系全編成について車体側の溝およびホロ止め金具の寸法確認を実施している。

《主な議論》

組合：なぜ事前確認をしなかったのか。

会社：必要な準備はしていたが、この日、初めてSS8編成とS1編成の組み合わせだった。事前に全ての確認はできていなかったが、当日の対応は適切であったと考える。

組合：この事象について各運輸区では説明が無かったが、何故なのか。

会社：必要なものは説明する。

組合：ということは、今回の事象は説明しなくても良かったものということなのか。

会社：そうではない。一から十まで説明することはできない。事象を受けて、全編成の点検を行っている。原因の追求も行っている。

組合：今回の事象の責任は運用車両課にあるのではないか。

会社：どこにあるのかは、難しい。

組合：今回の事象で、どこかの部署の人がペナルティを受けていないのか。

会社：あってもなくても答えられない。

組合：ホロのレバー（止め金具）は従来から非常に固い物がある。乗務員による時間僅少な中での分併作業は、傷害事故のリスクが大きい。自前の作業用手袋で事故防止に努めている人もいる。女性には固過ぎる止め金具やフックもある。これから改良する考えはないのか。

会社：具体的に今あるものはないが、乗務員の意見も聞きつつ対応を行っていきたい。

組合：対応として、3両での単独運転を行わなかったのはなぜなのか。

会社：後続列車が接近しており、その列車によって救済すると判断したためである。

以上